

2004年11月9日

**2005年3月期中間決算の概要 並びに
中期経営課題“プロジェクトNT - ”フォローアップ**

**東レ株式会社
代表取締役社長 榊原定征**

目次

1. 2005年3月期中間決算の概要

連結業績の概要	(P4-5)
営業外収支・経常利益	(P6)
特別損益・税前利益	(P7)
資産・設備投資額・減価償却費	(P8)
負債・資本	(P9)
事業セグメント別業績	(P10-16)
営業利益増加要因分析	(P17)
連結業績見通し	(P18-19)
リスクファクターとその対応	(P20)
原料価格の見通し	(P21)
原料価格上昇への対応について	(P22)
液晶市場の動向	(P23)

2. 中期経営課題“プロジェクト NT - ” フォローアップ

NT - の基本思想	(P25)
NT - の数値目標	(P26)
NT - で取り組むプロジェクト	(P27-32)
最近のトピックス	(P33)
< 参考資料 >	(P35-41)

2005年3月期中間決算の概要

連結業績の概要(収益)

億円

	04年3月期 中間期	05年3月期 中間期	増減	
売上高	5,343	5,757	+414	(+7.7%)
売上総利益	1,145	1,271	+126	(+11.0%)
(売上高総利益率)	21.4%	22.1%	+0.7	ポイント
販売費及び 一般管理費	897	915	+18	(+2.0%)
(売上高販管費比率)	16.8%	15.9%	-0.9	ポイント
営業利益	247	356	+109	(+43.9%)
(売上高営業利益率)	4.6%	6.2%	+1.6	ポイント
営業外収支	18	8	+9	(-)
経常利益	230	348	+118	(+51.4%)
特別損益	12	41	-29	(-)
中間純利益	109	198	+88	(+80.7%)

(注) 蝶理(株)、水道機工(株)は2005年3月期中間期まで持分法を適用。

	(前中間期)	(当中間期)		(前中間期)	(当中間期)
為替レート <円/US\$>	期中平均 : 118.0	109.9	<US\$/ユーロ>	期中平均 : 1.13	1.21
	期末 : 111.3	111.1		期末 : 1.16	1.23

連結業績の概要(財政状態)

億円

	04年3月末	04年9月末	増減	特記事項
総資産	12,953	13,953	+1,000 (+7.7%)	内、蝶理・水道機工の影響: +1,015億円
株主資本	4,142	4,336	+193 (+4.7%)	
有利子負債	4,945	5,007	+62 (+1.3%)	内、蝶理・水道機工の影響: +297億円

(注) 2004年9月末は、蝶理(株)、水道機工(株)を連結後。

	04年3月期 中間期	05年3月期 中間期	増減
ROE	5.5%	9.3%	+3.9 ポイント
ROA ^{*1}	3.8%	5.3%	+1.5 ポイント
フリー・キャッシュ・フロー	201	340	+139 (+68.9%)

*1) ROA = 営業利益 / 総資産

ROE、ROAは年率換算値

営業外収支・経常利益

億円

	04年3月期 中間期	05年3月期 中間期	増減	特記事項
営業外収益	74	73	-1	
受取利息及び配当金	9	9	-0	
持分法による投資利益	32	42	+11	蝶理、KTP(韓国)、STECO(韓国)等
雑収益	34	22	-12	
営業外費用	92	81	+11	
支払利息	40	31	+9	有利子負債圧縮および金利低下等
雑損失	51	50	+1	
営業外収支	18	8	+9	
経常利益	230	348	+118	
金融収支	32	22	+9	
雑収支	18	28	-10	

注) 収益はプラス、費用はマイナス()で表示

特別損益・税前利益

億円

	04年3月期 中間期	05年3月期 中間期	増減	特記事項
特別利益	15	9	-6	
有形固定資産売却益	14	3	-12	社宅跡地等の売却益減少等
投資有価証券売却益	1	0	-0	
その他	-	6	+6	
特別損失	27	51	-24	
有形固定資産売却廃棄損	13	12	+1	繊維・プラキ以外の設備の廃棄損・廃棄費用等
投資有価証券評価損	1	3	-2	
構造改善費用	13	32	-20	繊維・プラキ設備の廃棄損・廃棄費用等
その他	0	4	-4	
ネット特別損益	12	41	-29	
税前利益	218	306	+89	

注) 収益はプラス、費用はマイナス()で表示

資産・設備投資額・減価償却費

億円

	04年3月末	04年9月末	増減	特記事項
総資産	12,953	13,953	+1,000	内、蝶理、水道機工の影響：+1,015億円
流動資産	5,491	6,459	+969	内、蝶理、水道機工の影響：+891億円
有形固定資産	5,433	5,321	-112	内、蝶理、水道機工の影響：+49億円 設備投資の効率化等
無形固定資産	96	108	+11	内、蝶理、水道機工の影響：+11億円
投資その他	1,933	2,065	+133	内、蝶理、水道機工の影響：+64億円 株価回復による投資有価証券の増加等

	04年3月期 中間期	05年3月期 中間期	増減	特記事項
設備投資額	219	234	+15	東レ：64、国内：45、海外：125
減価償却費 -)	333	315	-18	東レ：132、国内：46、海外：137
振替・除却等	16	32	-47	
有形固定資産増減	98	112		

主な設備投資：＜国内＞東レ：炭素繊維関連設備（愛媛工場）

東レフィルム加工 等

＜海外＞SOFICAR：炭素繊維設備（フランス） 等

億円

	04年3月末	04年9月末	増減	特記事項
負債合計	8,437	9,105	+669	内、蝶理、水道機工の影響：+ 887億円
流動負債	4,729	5,485	+756	内、蝶理、水道機工の影響：+ 804億円
固定負債	3,708	3,620	-88	内、蝶理、水道機工の影響：+ 83億円
少数株主持分	374	512	+138	内、蝶理、水道機工の影響：+ 128億円
資本合計	4,142	4,336	+193	有価証券の評価差額金の増加等
有利子負債残高	4,945	5,007	+62	内、蝶理、水道機工の影響：+ 297億円

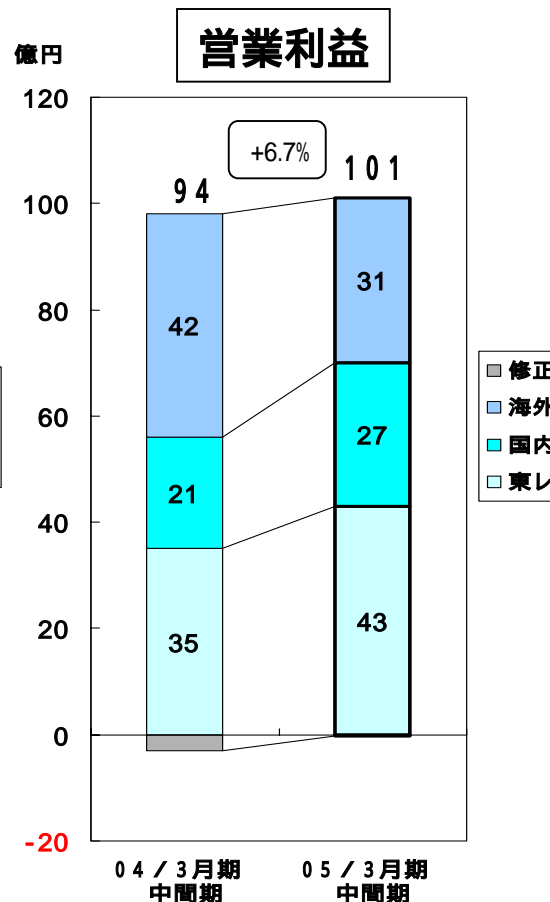
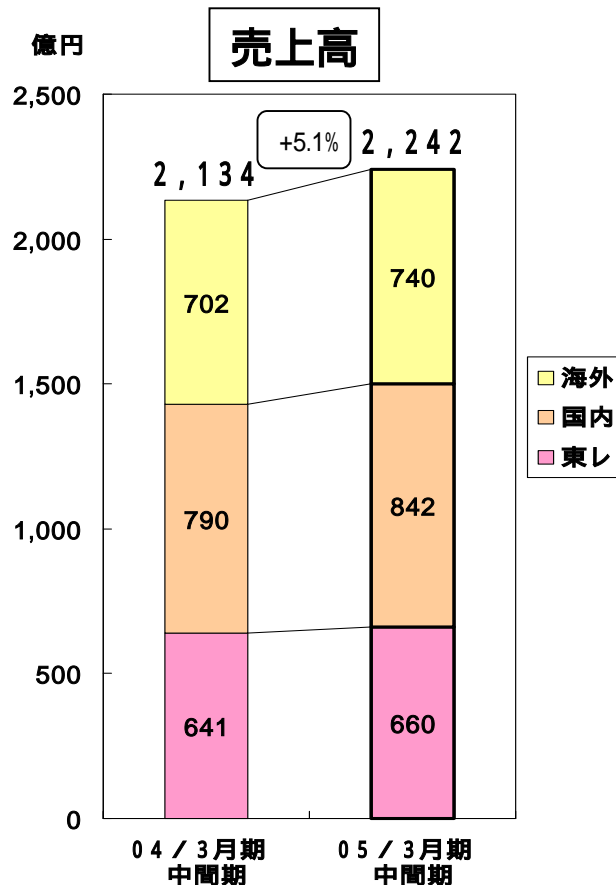
事業セグメント別業績(売上高 / 営業利益)

億円

	売上高			営業利益		
	04年3月期 中間期	05年3月期 中間期	増減	04年3月期 中間期	05年3月期 中間期	増減
繊維	2,134	2,242	+108 (+5.1%)	94	101	+6 (+6.7%)
プラスチック・ケミカル	1,274	1,348	+75 (+5.9%)	43	60	+17 (+39.9%)
情報・通信機材	834	1,085	+251 (+30.0%)	69	150	+81 (+116.6%)
住宅・エンジニアリング	543	520	-22 (-4.1%)	3	3	-1 (-18.2%)
医薬・医療	220	202	-18 (-8.2%)	7	3	-10 (-)
新事業その他	339	360	+21 (+6.0%)	27	44	+17 (+63.1%)
計	5,343	5,757	+414 (+7.7%)	244	354	+111 (+45.4%)
消去又は全社				4	2	-2
連結	5,343	5,757	+414 (+7.7%)	247	356	+109 (+43.9%)

(注) 東レ・ファインケミカルのIT関連ケミカルを
当中間期よりプラスチック・ケミカルセグメントから
情報・通信機材セグメントに組み替えている。
そのため04/3月期中間期についても同組み替え
分を修正している。

事業セグメント別業績(繊維)



特記事項

東レ

国内衣料市場の低迷、原料高の影響はあるが、衣料用・産業用とも価格転嫁の推進、高採算品へのシフト及び New Value Creatorの拡大などによる事業構造改革が着実に進展し、増収増益。

国内子会社

商事子会社の拡販、またその他子会社も拡販と体質強化を進め、増収増益。

海外子会社

アセアン及び中国子会社は、拡販と体質強化を進め、増収増益。欧州、韓国子会社の不振により、海外全体で増収なるも減益。

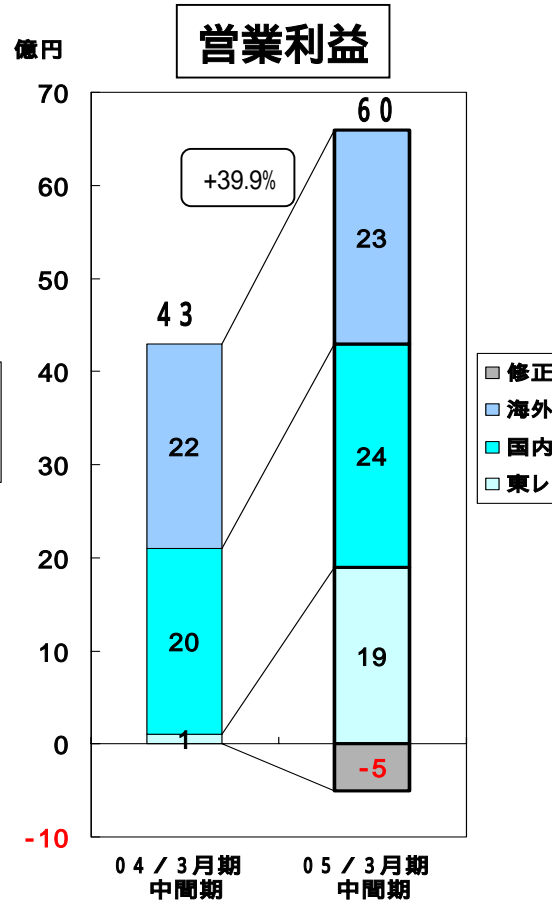
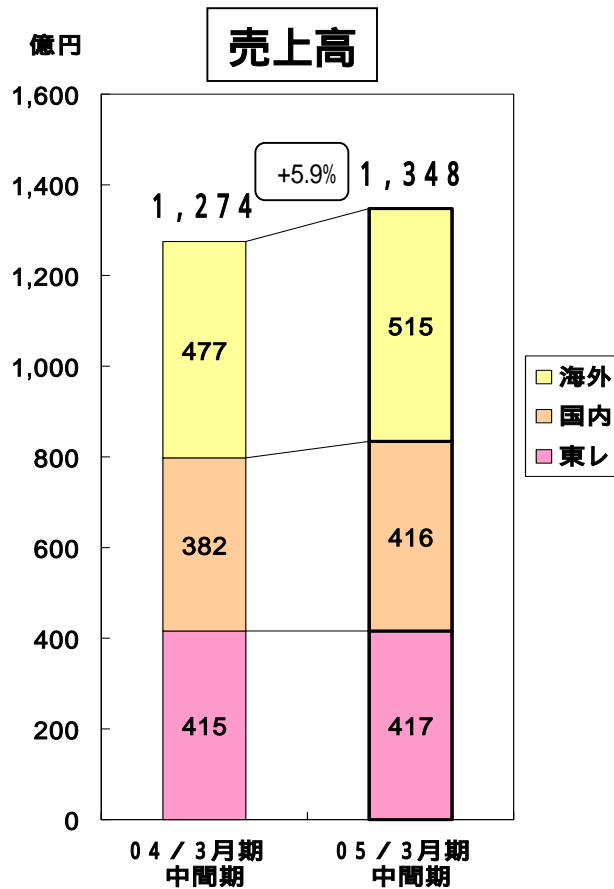
< 主要子会社 >

国内: 東レインターナショナル, 一村産業 他

アジア: ITS(インドネシア), LUCKYTEX(タイ), PENFABRIC(マレーシア), TFNL, TAK(中国) 他

欧米: ALCANTARA(イタリア) 他

事業セグメント別業績(プラスチック・ケミカル)



特記事項

東レ

樹脂は、自動車・電機用途向け、フィルムは、工業材料用途向けに拡販を進めると共に価格転嫁も推進し、増収増益。ケミカルは、加 ㊦㊦㊦の低採算輸出からの撤退により減収増益。全体として増収増益。

国内子会社

商事子会社、フィルム加工子会社が拡販を進め、増収増益。

海外子会社

各社原料価格高騰の影響を受けるも、早めの価格転嫁や高採算用途へのシフト等により、海外全体で増収増益。

< 主要子会社 >

国内: 曾田香料, 東レ・ファインケミカル, 東レフィルム加工 他

海外: TPA(アメリカ), TSI(韓国), TPEU(フランス), TPM(マレーシア) 他

(注) 東レ・ファインケミカルのIT関連ケミカルを当中間期よりプラスチック・ケミカルセグメントから情報・通信機材セグメントに組み替えている。

そのため04/3月期中間期についても同組み替え分を修正している。

事業セグメント別業績(情報・通信機材)

特記事項

東レ

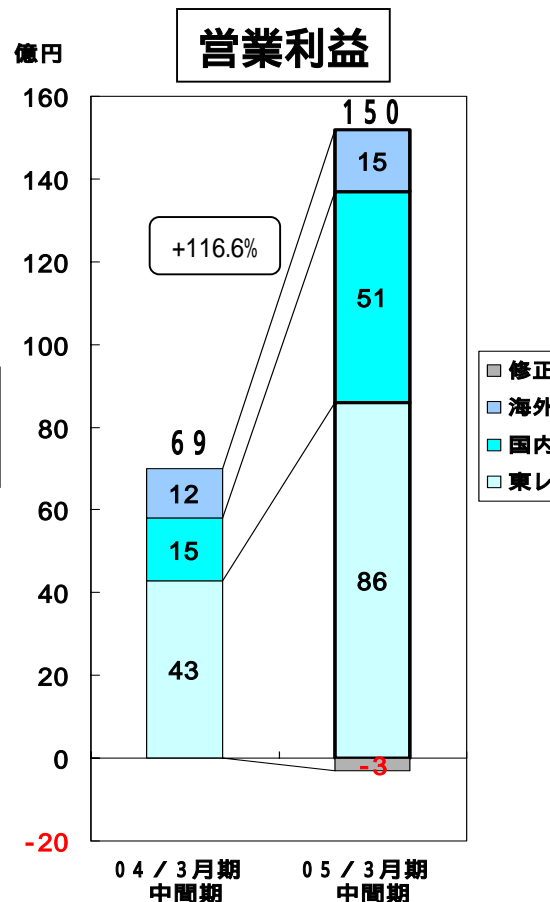
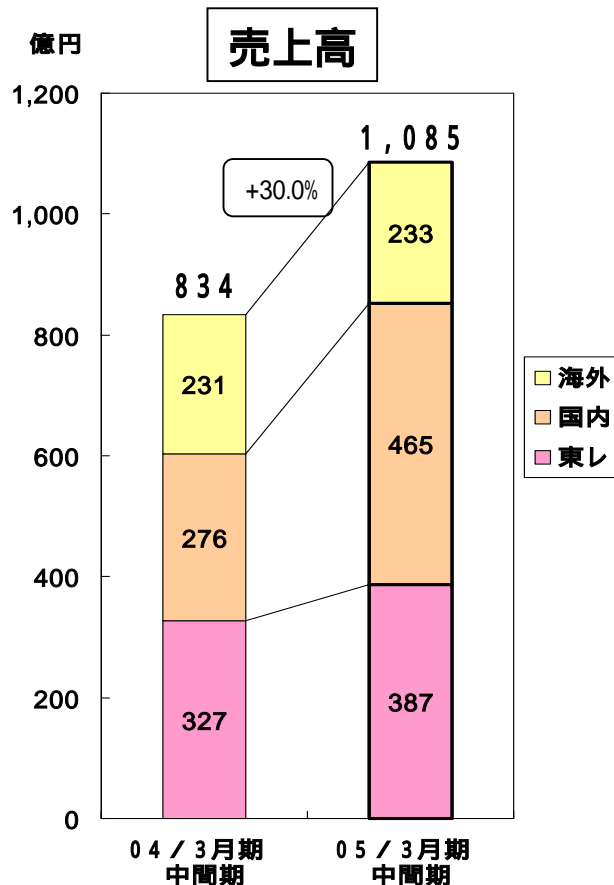
IT関連の樹脂・フィルム、回路・半導体材料、液晶カラーフィルターなどがデジタル関連製品需要の急速な拡大を背景に増収増益。

国内子会社

IT関連機器子会社が、液晶カラーフィルター塗布装置(スリットコーター)の本格販売を開始し、フィルム加工子会社も好調に推移したことから大幅な増収増益。

海外子会社

韓国のフィルム、回路材料関連子会社を中心に増収増益。



< 主要子会社 >

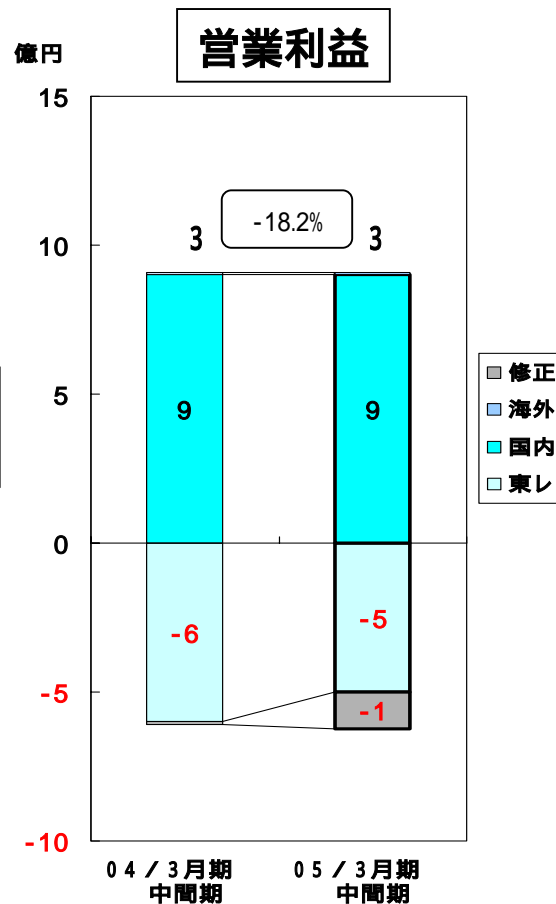
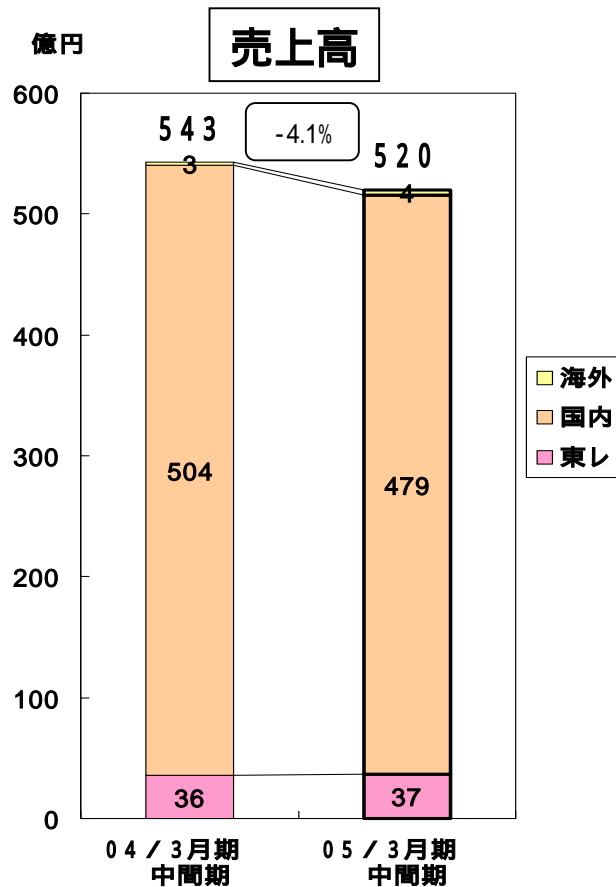
国内: 東レエンジニアリング, 東レフィルム加工 他

海外: TSI(韓国), TPA(アメリカ), TPEU(フランス) 他

(注) 東レ・ファインケミカルのIT関連ケミカルを当中間期よりプラスチック・ケミカルセグメントから情報・通信機材セグメントに組み替えている。

そのため04/3月期中間期についても同組み替え分を修正している。

事業セグメント別業績(住宅・エンジニアリング) TORAY



特記事項

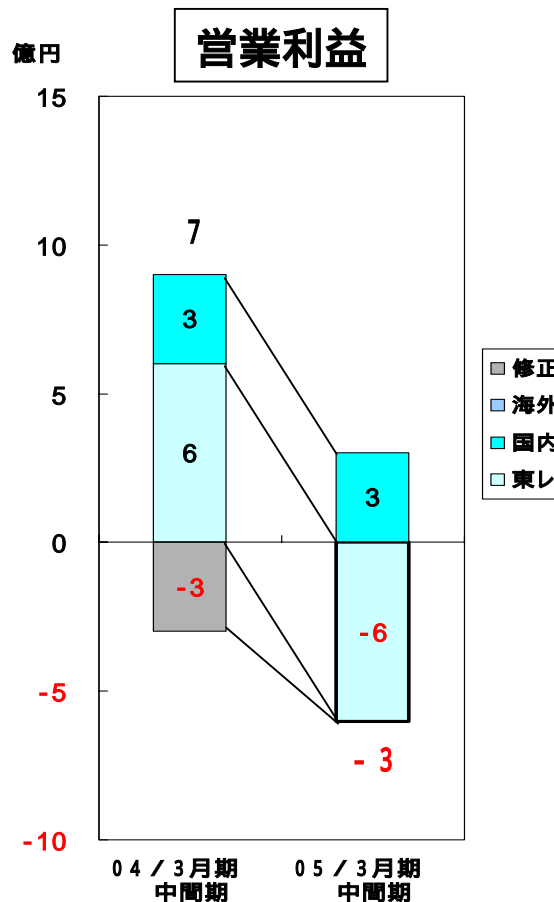
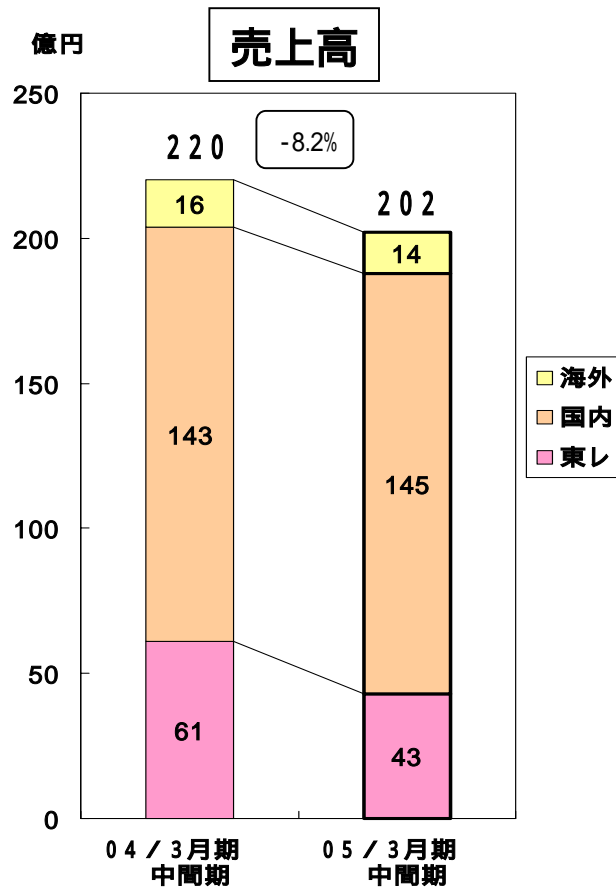
国内子会社

エンジニアリング子会社で、一部の案件の売上計上が下期にずれ込んだことなどにより減収となるも、体質強化の推進により、利益は横這い。

< 主要子会社 >

国内: 東レ建設, 東レエンジニアリング 他

事業セグメント別業績 (医薬・医療)



特記事項

東レ

医薬・医療材事業は、薬価改定及び医療材の償還価格引き下げの影響等により減収減益。

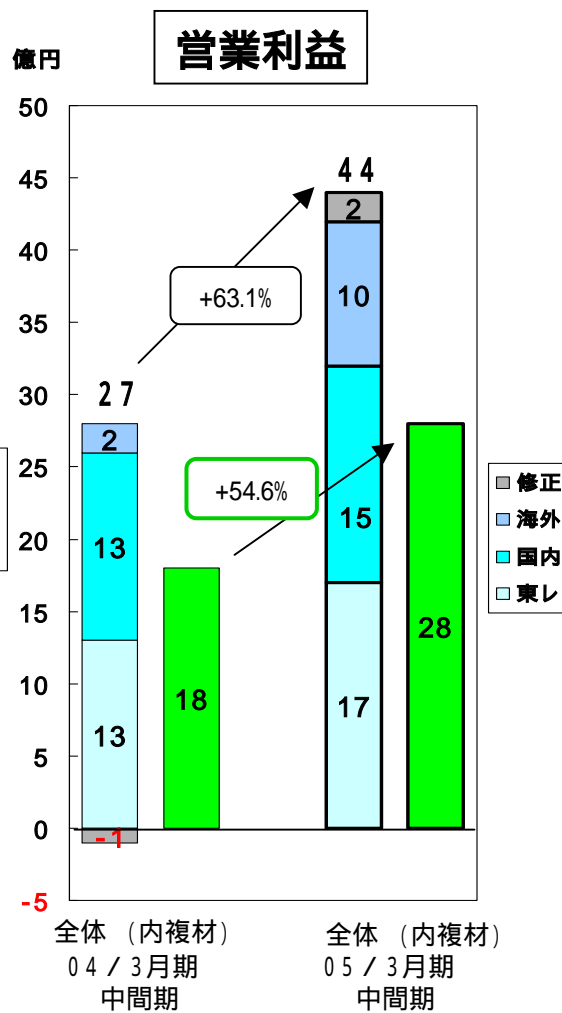
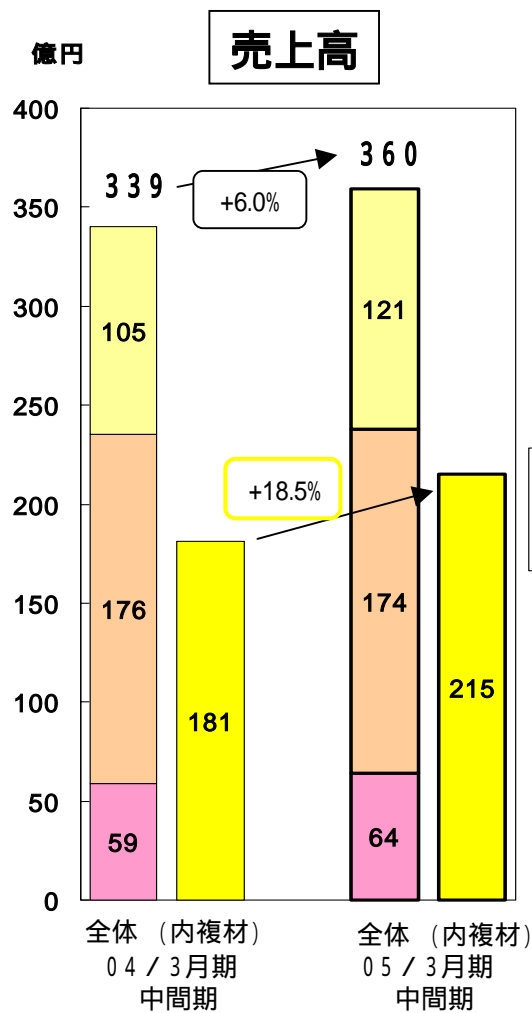
国内子会社

医療材の拡販により増収となるも、競争激化により利益横這い。

< 主要子会社 >

国内： 東レ・メディカ

事業セグメント別業績(新事業その他)



特記事項

東レ

主力の複合材料(複材)事業が好調に推移し、増収増益。

国内子会社

商事子会社において、前年同期に特需があったことから、全体として減収なるも、体質強化等が進み、増益。

海外子会社

複材事業における、航空機用途の需要が拡大期に入ると共に、産業用途が順調に拡大し、増収増益。

< 主要子会社 >

国内：東レリサーチセンター、東レインタープライズ 他
 海外：SOFICAR (フランス) 他

営業利益増加要因分析

億円

	04/3中間期		05/3中間期
	東レ	子会社	合計
先端材料・NVC [*] の拡大、生産・営業効率改善、販売量・生産量増など	+40	+76	+116
TCプロジェクト効果(製造固定費・外注加工費・購買物流費・本社費・営業費の削減、要員効率化など)	+30	+7	+37
販売価格アップ・原料価格アップの影響など(ネット)	-8	-36	-44
合計	+62	+47	+109

*NVC:New Value Creator

連結業績見通し

億円

		04年3月期	05年3月期	増減	連結による影響(内数)		
					蝶理	水道機工	合計
売上高	上期	5,343	5,757	+414 (+7.7%)	-	-	-
	下期	5,542	7,443	+1,901 (+34.3%)	1,177	134	1,312
	通期	10,885	13,200	+2,315 (+21.3%)	1,177	134	1,312
営業利益	上期	247	356	+109 (+43.9%)	-	-	-
	下期	321	444	+123 (+38.5%)	24	15	38
	通期	568	800	+232 (+40.9%)	24	15	38
経常利益	上期	230	348	+118 (+51.4%)	-	-	-
	下期	286	412	+126 (+44.0%)	15	13	28
	通期	516	760	+244 (+47.3%)	15	13	28
当期純利益	上期	109	198	+88 (+80.7%)	-	-	-
	下期	100	192	+93 (+92.9%)	5	3	7
	通期	209	390	+181 (+86.5%)	5	3	7
1株当たり 当期純利益	上期	7.81円	14.12円				
	下期	7.06円	13.72円				
	通期	14.87円	27.84円				

想定為替レート(2004年10月～2005年3月): 110円/US\$、1.2US\$/ユーロ
 想定原油価格: 38US\$/B (ドバイFOB)

事業セグメント別業績見通し (売上高 / 営業利益)

億円

		売上高				営業利益				特記事項
		04年 3月期	05年 3月期	増減	(%)	04年 3月期	05年 3月期	増減	(%)	
繊維	上期	2,134	2,242	+108	(+5.1%)	94	101	+6	(+6.7%)	価格転嫁、高採算品へのシフト、体質強化等を進め、増収増益。
	下期	2,114	3,058	+944	(+44.7%)	89	114	+25	(+27.9%)	
	通期	4,248	5,300	+1,052	(+24.8%)	184	215	+31	(+17.0%)	
プラスチック・ケミカル	上期	1,274	1,348	+75	(+5.9%)	43	60	+17	(+39.9%)	樹脂は自動車・電機用途へ、フィルムは工業材料用途への拡販を進め、増収増益。
	下期	1,274	1,652	+377	(+29.6%)	49	80	+31	(+63.6%)	
	通期	2,548	3,000	+452	(+17.7%)	92	140	+48	(+52.5%)	
情報・通信機材	上期	834	1,085	+251	(+30.0%)	69	150	+81	(+116.6%)	IT関連樹脂・フィルム、電子材料、IT関連機器子会社の好調等により増収増益。
	下期	944	1,116	+171	(+18.1%)	109	140	+31	(+28.6%)	
	通期	1,778	2,200	+422	(+23.7%)	178	290	+112	(+62.7%)	
住宅・エンジニアリング	上期	543	520	-22	(-4.1%)	3	3	-1	(-18.2%)	建設子会社の拡販、エンジニアリング子会社の体質強化等により増収増益。
	下期	659	980	+321	(+48.8%)	14	37	+24	(+173.3%)	
	通期	1,201	1,500	+299	(+24.9%)	17	40	+23	(+136.0%)	
医薬・医療	上期	220	202	-18	(-8.2%)	7	3	-10	(-)	医薬品の薬価改定及び競争激化により減収減益。
	下期	259	248	-11	(-4.2%)	28	33	+5	(+17.0%)	
	通期	479	450	-29	(-6.0%)	35	30	-5	(-14.5%)	
新事業その他	上期	339	360	+21	(+6.0%)	27	44	+17	(+63.1%)	主力の炭素繊維複合材料の好調を主因に増収増益。
	下期	292	390	+98	(+33.7%)	32	41	+9	(+29.3%)	
	通期	631	750	+119	(+18.8%)	59	85	+26	(+44.9%)	
内、炭素繊維複合材料	上期	181	215	+34	(+18.5%)	18	28	+10	(+54.6%)	航空機用途及び産業用途の需要拡大により増収増益。
	下期	192	255	+63	(+33.1%)	18	28	+10	(+59.1%)	
	通期	373	470	+97	(+26.0%)	36	56	+20	(+56.8%)	
計	上期	5,343	5,757	+414	(+7.7%)	244	354	+111	(+45.4%)	
	下期	5,542	7,443	+1,901	(+34.3%)	321	446	+125	(+38.9%)	
	通期	10,885	13,200	+2,315	(+21.3%)	564	800	+236	(+41.7%)	
消去又は全社	上期					4	2	-2		
	下期					0	2	-1		
	通期					3	0	-3		
連結	上期	5,343	5,757	+414	(+7.7%)	247	356	+109	(+43.9%)	
	下期	5,542	7,443	+1,901	(+34.3%)	321	444	+123	(+38.5%)	
	通期	10,885	13,200	+2,315	(+21.3%)	568	800	+232	(+40.9%)	

リスクファクターを常に意識し、業績への影響を極小化するために早め早めの対応をとる。

<リスクファクター>

<影響を極小化するための施策・戦略>

原料(PTA、EG、AN等)価格の高止まり、更なる値上がり

- 購買・営業間の情報を密にすることにより早めの価格転嫁を実施する。
- 原料価格連動型の販売価格契約。
- 高付加価値品へのプロダクトミックスのシフト。

IT関連機器需要の減速の懸念

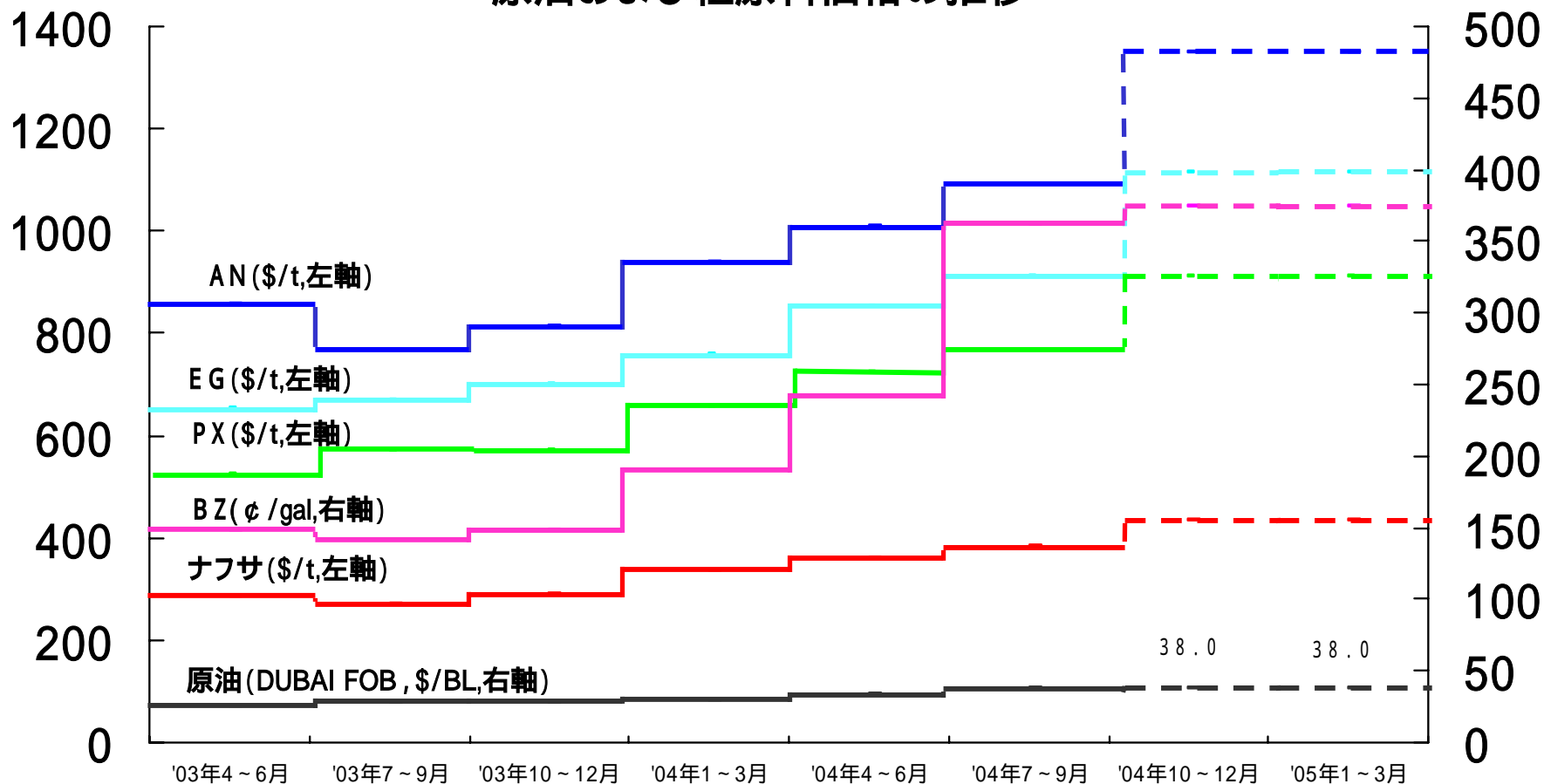
- New Value Creatorの推進により顧客からの情報を早めに察知し、顧客ニーズの高い付加価値品の開発に繋げる。
- 長期供給契約により安定した収益を確保。
- 値下げ抵抗力のあるナンバーワン製品を拡大。

米国やアジア・中国景気の減速

- “プロジェクト NT - ”の着実な実行による、景気に左右されにくい企業体質の構築。

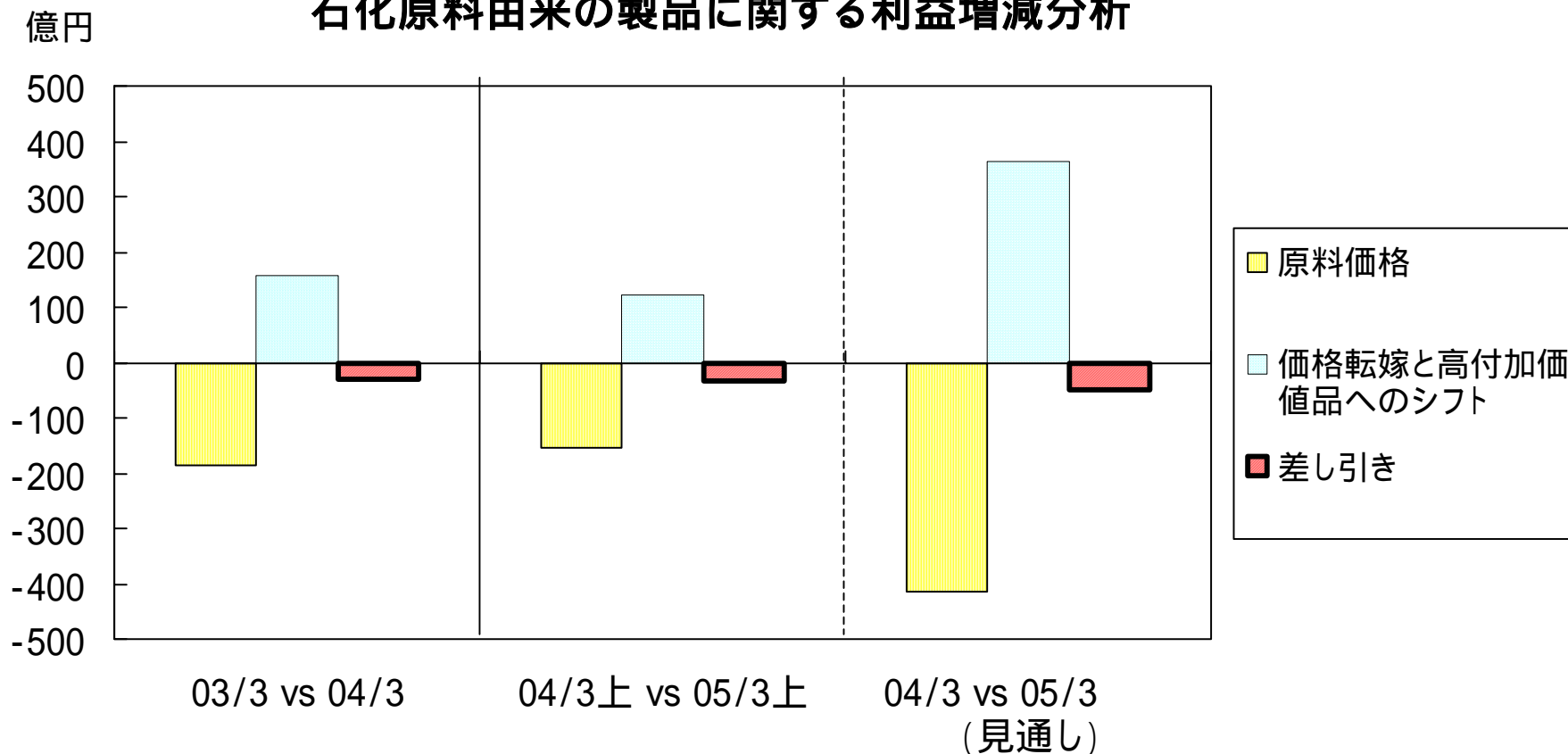
原油ならびに主要な原料価格は、今後も2004年10～12月の水準で高止まって推移すると見込む。

原油および粗原料価格の推移



原料価格の上昇に対応するため、価格転嫁や高付加価値品への転換などにより、販売単価を維持・上昇するよう努めている。

石化原料由来の製品に関する利益増減分析

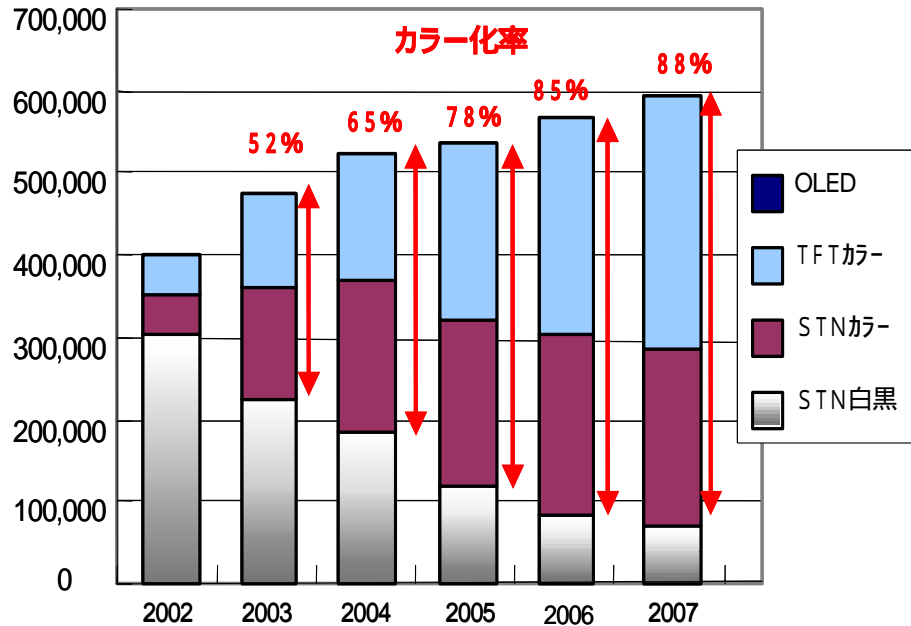


(注)石化原料由来の製品とは、主に繊維、フィルム・樹脂、ケミカル製品、炭素繊維複合材料等です。

液晶市場の動向

液晶モジュール価格は、今後も継続的に下落すると考えている。中型・小型向けでは、カラーフィルタの特品化を進め、値下げ抵抗力を高める。特に、携帯電話用途は、カラー化率の上昇に伴い、今後も好調な需要に支えられると考える。また、大型向けのPETフィルムやTAB用ポリイミドテープ等についても、ナンバーOne事業の強みを最大限に活かす。

携帯電話の出荷台数とカラー化率

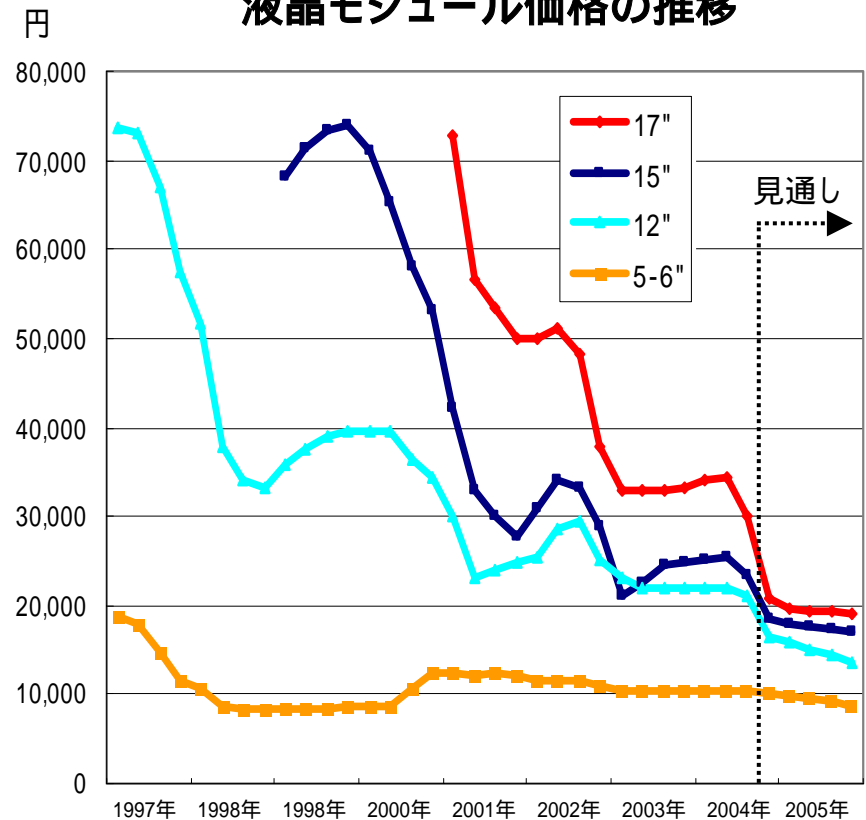


データ：調査会社資料を元に当社推定

当社におけるサイズの区分は以下の通りです。

分類	主要サイズ	主な用途
中型・小型	10インチ以下	携帯電話、カーナビ、PDA、デジカメ
大型	11インチ超	ノートPC、モニター、液晶テレビ

液晶モジュール価格の推移



データ：半導体新聞、調査会社資料等を元に当社推定

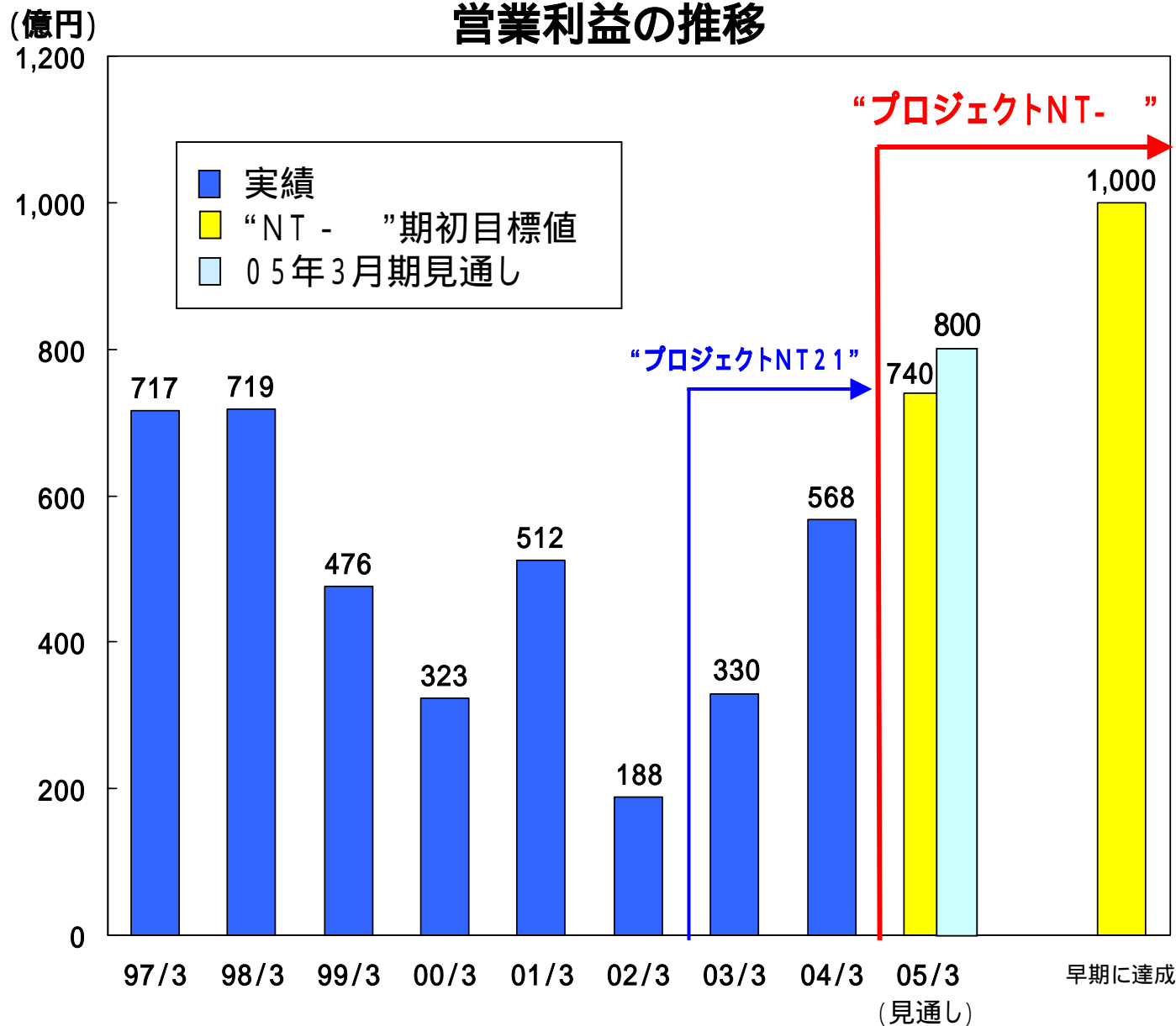
中期経営課題 “プロジェクトNT- ”フォローアップ

NT21は、「危機意識の共有化をベースにした抜本的体質強化による収益の早期改善」を基本思想とした改革。
(体質強化・守りの経営)

体質強化による収益力の改善をベースとして、
新たな飛躍に向けて中期の課題・改革に本格的
に取り組む素地ができた。

NT- は、「恒常的な企業体質強化と更なる事業構造改革による高収益企業グループへの飛躍」を基本思想とした改革。
(守りと攻めの経営)

NT- の数値目標



営業利益1000億円
達成時の主要財務
指標イメージ

売上高営業利益率
約8%

ROA: 約7%

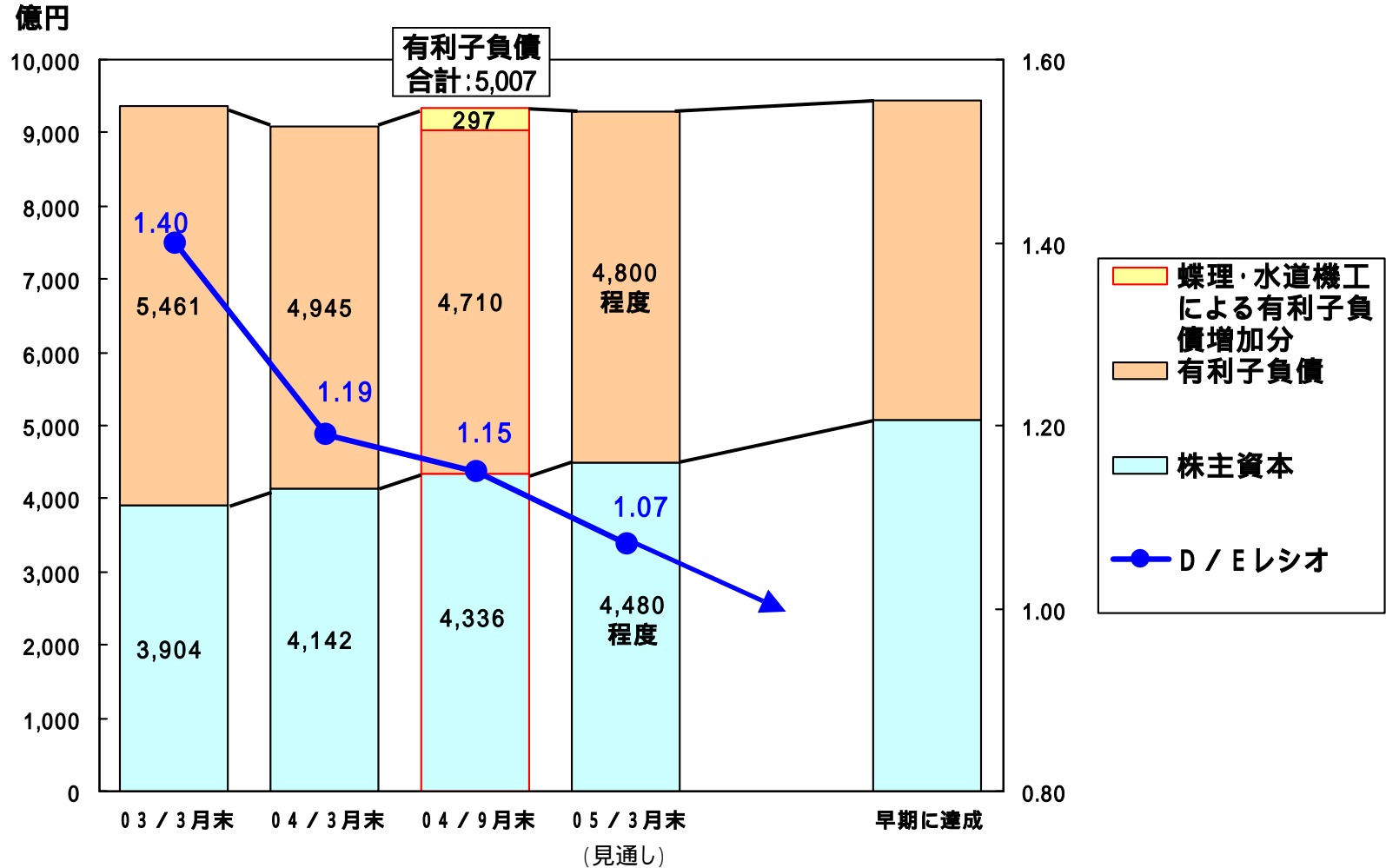
ROE: 約10%

D/Eレシオ: 1.0以下

経営課題	プロジェクト	取り組むべきテーマ
意識改革・ 企業体質 強化	(1) 活性化 (ACTプロジェクト)	コミュニケーション・情報共有化の強化 コーポレートアントレプレナーシップの社風喚起 年金制度の改革 若手優秀人材の抜擢 女性が活躍できる企業文化の確立
	(2) トータルコスト競争力(～05/3) (TCプロジェクト) 自助努力改善(05/4～) (JDプロジェクト)	TC-3の確実な実行(削減目標:60億円) 05年度以降は自助努力改善(JDプロジェクト)として展開
	(3) 財務体質強化 (FK - プロジェクト)	先端材料事業への投資拡大と財務体質強化の両立 D/Eレシオ1.0以下の早期達成
	(4) 営業改革 (営業改革プロジェクト)	営業の意識改革 営業指標の目標管理 New Value Creatorの推進 IT武装化 ワンストップトータルサービス機能拡大 グローバルオペレーションの更なる強化 ZH(在庫半減)プロジェクト
事業構造 改革による 事業拡大・ 収益拡大	(5) 品種別利益管理強化 (HKプロジェクト)	粗利赤品種の撲滅 粗利率5%以上/3年間の改善 売上高営業費比率の維持・低減
	(6) 先端材料事業拡大 (SZプロジェクト)	新規先端材料の早期事業化 研究開発機能の強化(TFRCなどの拡充等) 既存先端材料の拡大 知的財産力の強化
	(7) ナンバーOne、オンリーOne、 ファーストOne事業拡大 (ナンバーOneプロジェクト)	ナンバーOne事業拡大戦略の推進 ナンバーOne事業への経営資源の傾斜投入 社員の意識高揚(自信、プライドの喚起)とナンバーOne事業の力を活かした事業戦略強化
	(8) 海外事業の戦略的拡大 (KPプロジェクト)	アセアン - 事業構造改革、新規事業展開による収益拡大 中国 - 黒字定着、新規事業の積極的推進 韓国 - IT関連材料、先端材料の拡大 欧米 - 事業構造改革、先端材料拡大による収益向上

財務体質強化プロジェクト

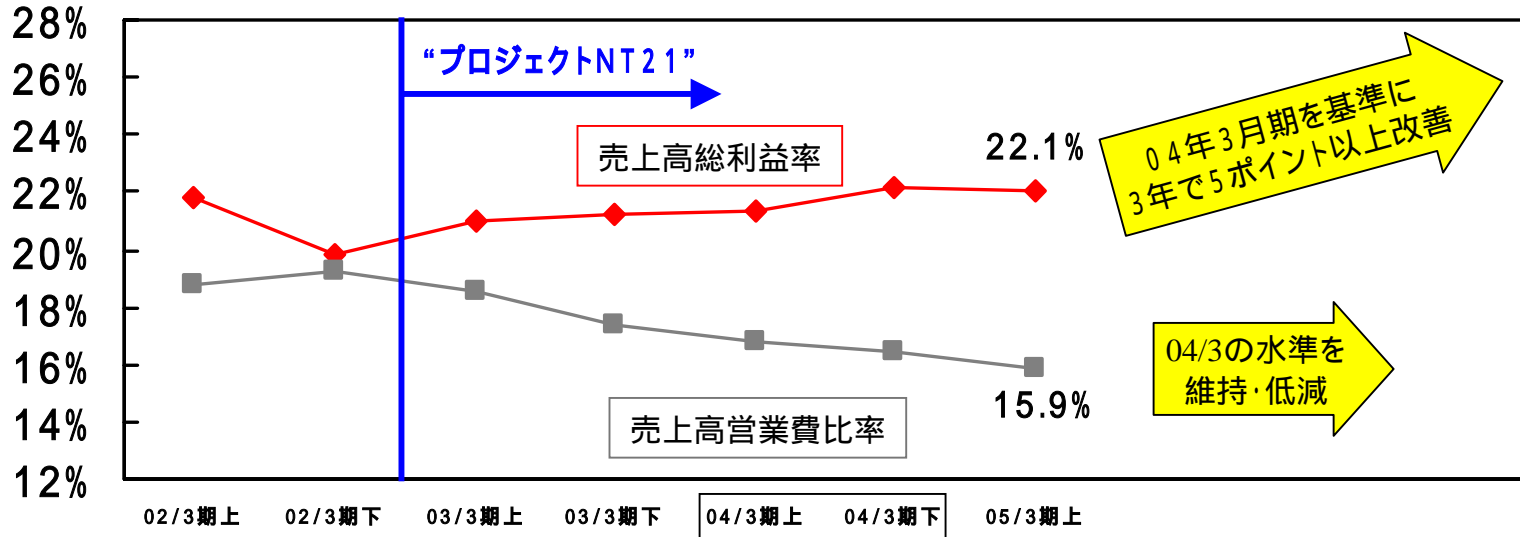
D / Eレシオを早期に1.0以下に低下させ、1.0以下の水準を維持しながら、先端材料事業への積極投資と財務体質の強化を両立させる。



品種別利益管理強化プロジェクト

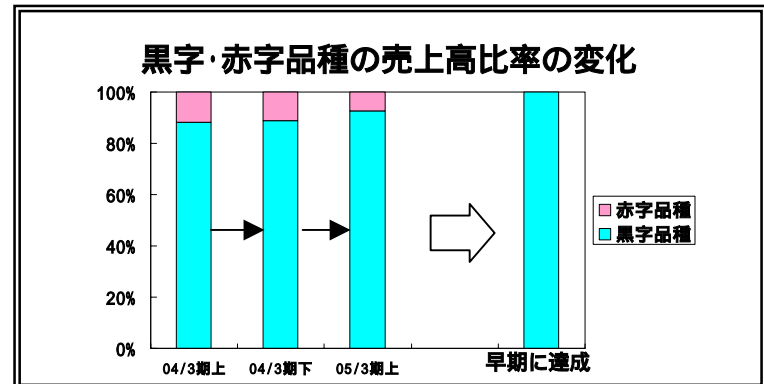
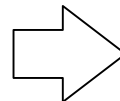
当中間期は、原料価格高騰の影響もあるが、売上高総利益率を改善すると共に、売上高営業費比率の更なる引き下げに努め、売上高営業利益率を向上することができた。

売上高総利益率と売上高営業費比率の推移



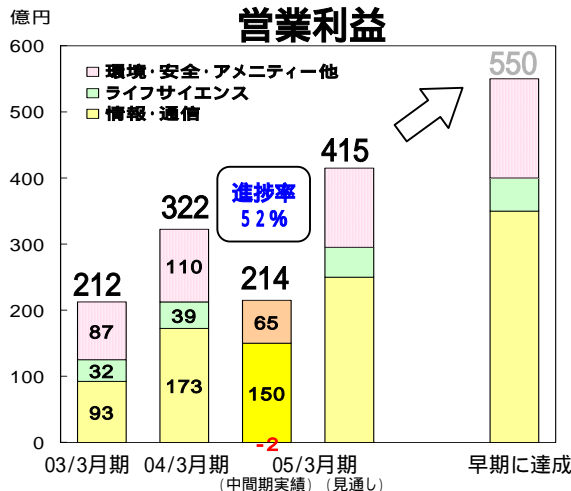
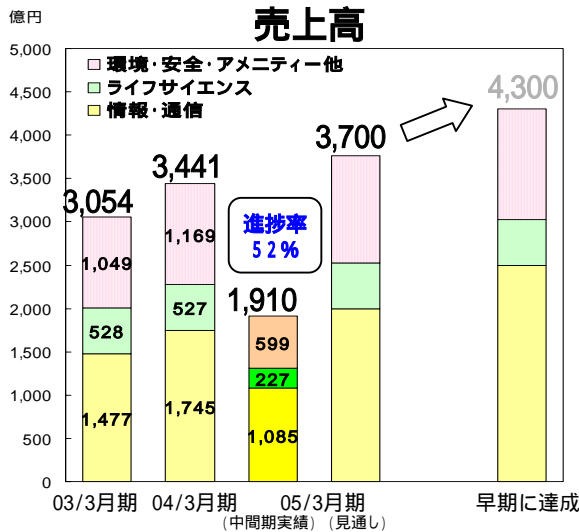
< 粗利赤字品種撲滅運動の成果(単体) >

- 1.粗利赤字品種撲滅のためのアクションプログラムの作成
- 2.実行面でのITツールの開発
- 3.月別の徹底フォロー



先端材料事業拡大プロジェクト

経営資源を傾斜的に配分していくという方針の下、先端材料のスピーディーな開発・事業化をするため、「先端材料開発」と「開発力強化」を二本柱にして推進している。当中間期の業績は順調に進捗している。



先端材料事業拡大プロジェクト

先端材料開発

既存製品関連テーマ

事業拡大テーマ

事業化推進プロジェクト
(2年間で事業化)

- ・有機EL材料
- ・CMP研磨パッド
- ・次世代フィルム回路基板
- ・フラットパネルディスプレイ用部材

開発力強化

- ・戦力傾斜配分
- ・知財力強化
- ・情報力強化
- ・要素技術力強化

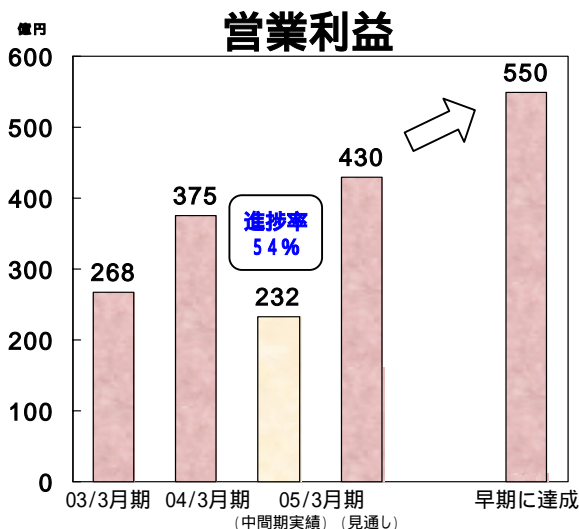
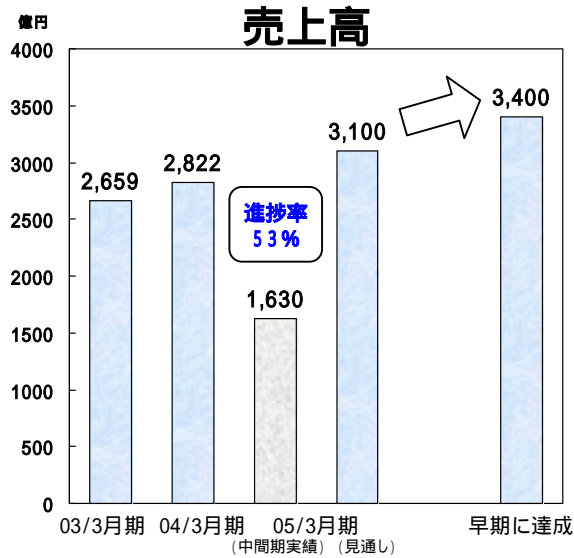
研究改革ステップアップ

生産力強化 (NT - 工場パワーアップ活動)

(注) ライフサイエンス分野は季節要因有り。

ナンバーOne事業拡大プロジェクト

東レの31のナンバーOne事業は、PETフィルム、炭素繊維、半導体実装装置(TEK)の販売好調を主因に、上期は見通しを上回って推移した。



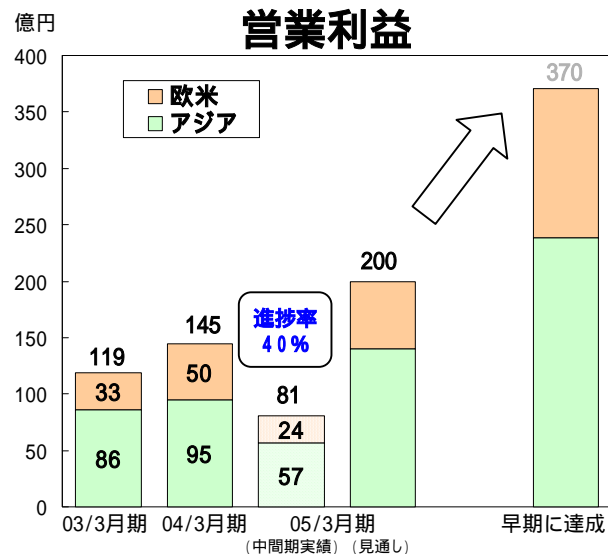
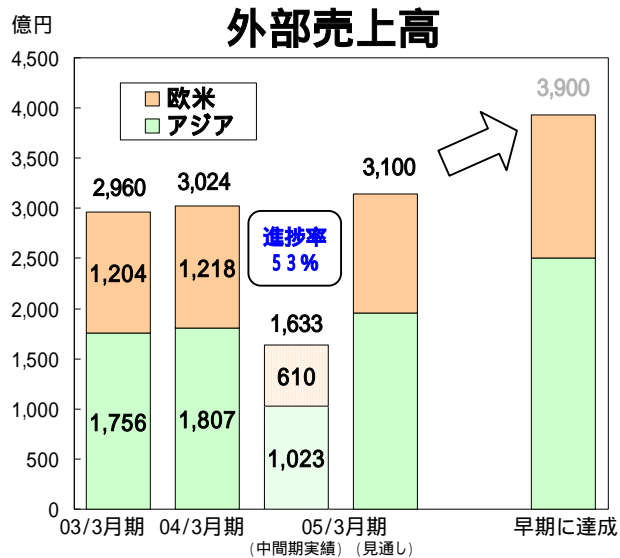
ナンバーOne事業

事業名		04/3月期 世界シェア(推定)
繊維	ポリエステル綿混織物	30%
	裏地用タフタ	21%
	スエード調人工皮革	32%
	漁網用ナイロン長繊維	21%
	フッ素繊維	39%
	縫糸用ポリエステル短繊維	28%
	ポリエステル・レーヨン混織物	12%
プラスチック	PETフィルム	19%
	コンデンサ用OPPフィルム	14%
	パラ系アラミドフィルム	90%
	PPSフィルム	100%
	プロテクト用PE系フィルム	43%
ケミカル	DMSO	44%
複材	炭素繊維複合材料	37%
医薬・医療	敗血症治療用血液浄化器	100%
電情材	フィルムキャリアテープ	81%
	感光性樹脂凸版	37%
液晶材	LCDスピンスコーター(G5サイズ~)	43%
TEK	液晶パネルチップ実装装置	40%
	液晶パネル二次元コードマーキング装置	70%
その他	11事業	
合計 (31事業)	04/3月期業績 売上高 2,822億円 営業利益 375億円	

世界シェアが2位の事業(11事業)、3位の事業(6事業)についても、ナンバーOne事業になる可能性のあるものについては、プロジェクトリーダーを決めてナンバーOne事業に向けての事業戦略を策定・実行していく。

海外事業の戦略的拡大プロジェクト

海外事業の戦略的拡大に向け、以下の重点プロジェクトを推進中。



重点プロジェクト(例)

- (1) 中国における事業展開プロジェクト
 - ・ベースジン・コンパウンド事業
 - ・不織布事業
 - ・水処理事業
- (2) 韓国における事業拡大プロジェクト
 - ・韓国TSIを中心とした電情材事業
- (3) タイにおける事業拡大プロジェクト
 - ・自動車関連事業(カーシート、シートベルト、コンパウンド事業、等)
- (5) 東欧における事業展開プロジェクト
 - ・自動車関連用途事業
 - ・電情材関連用途事業、等

最近のトピックス

時期	トピックス	NT- の施策			
		先端材料 事業拡大	ナバ-One 事業拡大	海外事 業拡大	事業構 造改革, NVC
9月	高感度DNAチップの開発 バイオとナノの融合によって従来比約100倍の高感度DNAチップを開発。				
9月	米TFA社のフッ素繊維新工場稼働開始 デュボン社から買収したフッ素繊維事業の製造設備をTFA社アラバマ工場に移設。				
10月	中国における研究開発の強化 中国の優秀な人材を活用した高分子基礎研究を強化するため、南通に続き、上海にもブランチラボを設置。				
10月	ポリ乳酸(PLA)事業の更なる強化 カネボウ合繊株式会社からポリ乳酸事業(「ラクトロン」事業)に関連する特許権、意匠権及び実用新案権の譲渡を受け、循環社会型素材の一つであるPLA事業を更に強化・拡大する。				
10月	「プラスチック環境・リサイクル室」の新設 環境配慮型プラスチック事業を本格展開するため、「プラスチック環境・リサイクル室」を新設した。				
10月	ナノスケール加工技術の開発 ナノスケールで機能材料の配列、分子集合状態を制御することで、10~30nmの被膜を形成させ、繊維表面を覆う技術を確立。				
10月	仏ソフィカール社の炭素繊維新ライン順調に稼働 欧州における旺盛な炭素繊維需要に対応するため、10月に稼働を予定していた仏ソフィカール社の炭素繊維新ラインが順調に稼働開始。(800t 2600t/年)				
11月	子会社による直営ホテル事業の売却 国内関係会社の整理・統合・再編の方針の一環として、東レエンタープライズ(株)の直営ホテル事業を売却する。				

参考資料

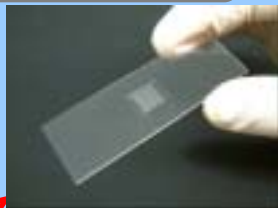
高感度DNAチップの開発

バイオとナノの融合によって従来比約100倍の高感度DNAチップを開発。遺伝子診断やゲノム創薬データベース構築に貢献。

新型DNAチップ開発

高速、高精度DNAチップ

東レ



従来比100倍の高感度化に成功

京大との連携

従来型DNAチップ

東レ

京大医薬連合

疾患関連遺伝子情報

辻本教授など

遺伝子診断チップ

ゲノム創薬データベース

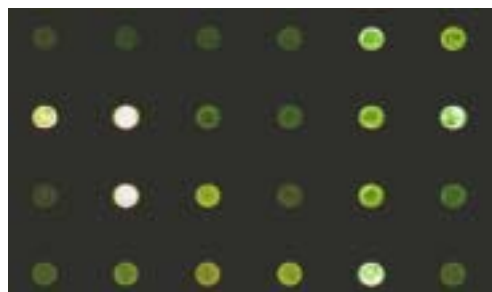
シグナル強度の向上

+

ノイズの大幅低減



従来型DNAチップ



新型DNAチップ

検出感度の飛躍的向上
(従来型チップの100倍)

高速検出
(従来型チップの10倍)

高定量性

高再現性

中国における研究開発の強化

中国の優秀な人材を活用した高分子基礎研究を強化するため、南通に続き、上海にもブランチラボを設置。

基本コンセプト

- ◆ 中国ビジネスをサポートする商品開発・技術支援
- ◆ 中国の優秀な人材を活用した高分子基礎研究強化
- ◆ 中国大学・研究機関との連携強化
(例) オープンラボの活用(上海交通大など)

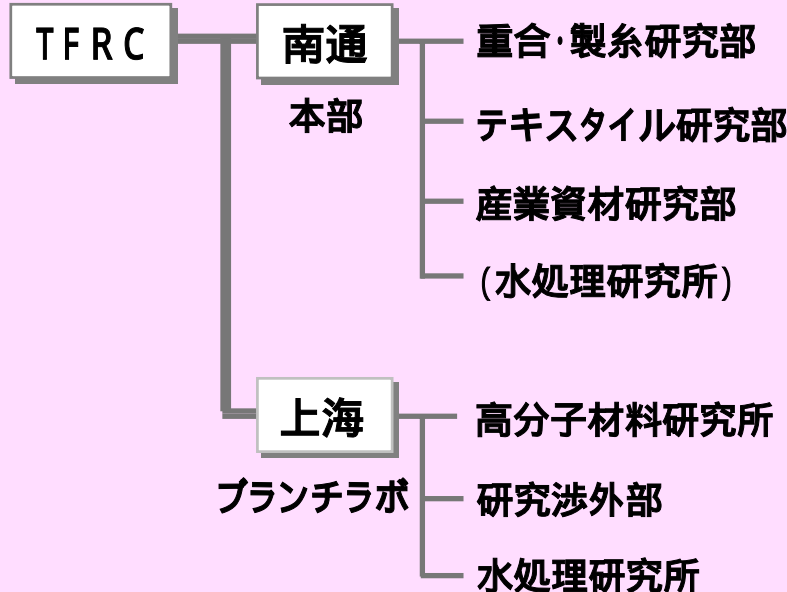


南通(高次加工棟)



上海(ブランチラボ)

TFRC組織



研究者要員計画(TFRC)

H15年度 : 約 50名

H16年度 : 約150名

H20年度 : 約350名

ポリ乳酸 (PLA) 事業の更なる強化

カネボウ合繊株式会社からポリ乳酸事業(「ラクトロン」事業)に関連する特許権、意匠権及び実用新案権の譲渡を受け、循環社会型素材の一つであるPLA事業を更に強化・拡大する。

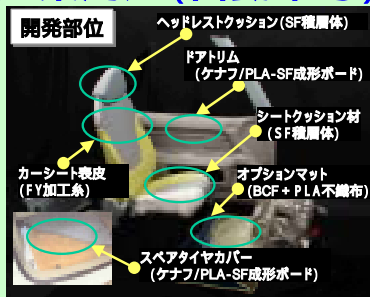
カネボウ合繊PLA事業取込みの理由

- 特許等知的財産権の活用
- 有力用途・顧客の戦略的取り込み
- 優位技術の活用

PLA繊維事業における期待されるシナジー効果

東レ“エコディア”事業が注力している用途

産業用途(自動車等)



カネボウ合繊「ラクトロン」事業が注力している用途

- 農園芸用途 (幼齢木ネット等)
- 生活資材用途 (業務用水切りネット等)
- 衣料用途 (インナー、ベビー用品等)

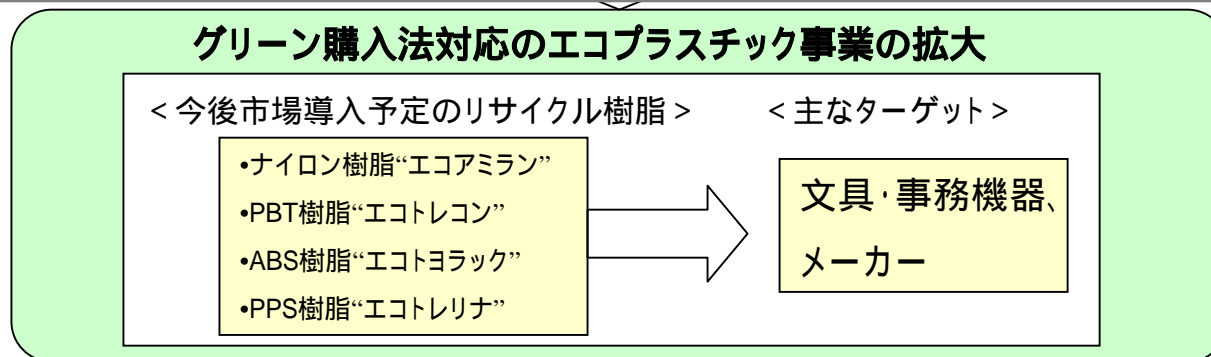
補完

PLA繊維事業の幅広い用途展開の実現

環境配慮型プラスチック事業を本格展開するため、「プラスチック環境・リサイクル室」を今年8月に新設し、「プラスチックリサイクルの推進」とポリ乳酸関連製品を初めとする「環境配慮型製品の開発」を重点テーマとして、同事業の育成拡大を図る。

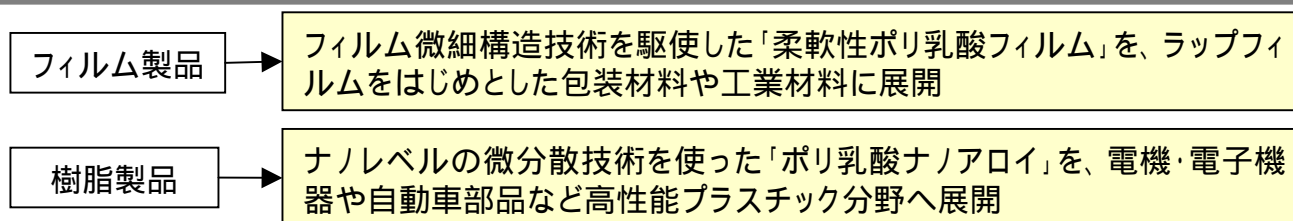
1. プラスチックリサイクルの推進

LCA(Life Cycle Assessment:環境負荷評価)において有利とされるマテリアルリサイクルを中心に、リサイクルビジネスモデルの開発と構築を推進



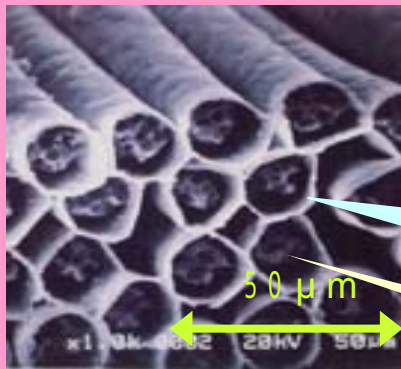
2. ポリ乳酸関連製品(環境配慮型プラスチック製品)の開発

当社のポリ乳酸関連製品(環境配慮型製品)の統合ブランドである“エコディア”を冠し、繊維製品と一体化した市場展開を開始



ナノスケールで機能材料の配列、分子集合状態を制御することで、10～30nmの被膜を形成させ、繊維表面を覆う技術を確立。機能向上、対象素材の拡大、機能の複合化、新機能の発現が可能に。高機能性繊維材料の開発ばかりでなく、他素材への適用、新たな機能の創出などにも展開。

繊維表面に構造制御されたナノスケール皮膜を形成する技術



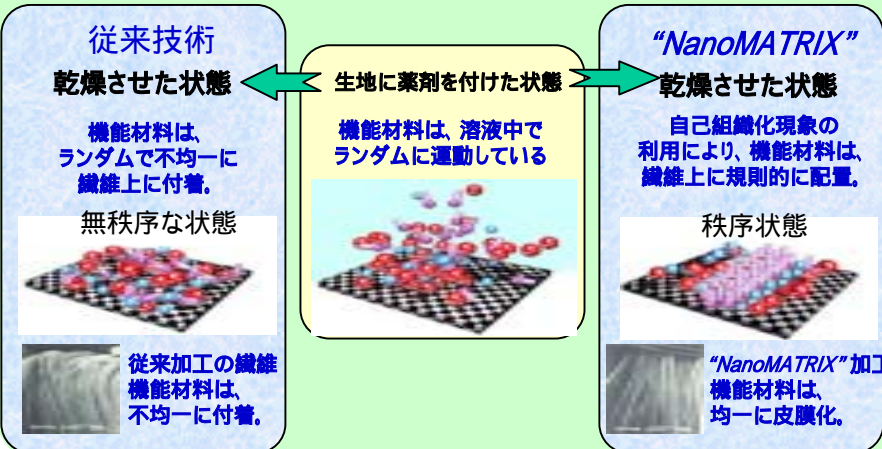
“NanoMATRIX”
単繊維表面を
機能材料で被覆

機能材料の単繊維連続皮膜
皮膜厚さ: 10～30nm

溶解させたPET繊維
繊維径: 15 μm

SEM写真: アルカリでPETを溶解し、被覆した機能材料を残した写真

“NanoMATRIX”のための技術の一例



『ナノスケール加工技術』将来の可能性

『ナノスケール加工技術』



ナノサイズの構造体・集合体の構築

基盤製造技術
の構築

革新的な、新規な機能、物性の発現

新素材の創出

高機能性繊維材料

他素材への適用

新規機能の創出

既存生産技術の革新

- ◇衣料用途
- ◇産業資材用途
- ◇医療用途
- ◇水処理分野
- ◇コンポジット

- ◇フィルム
- ◇電子材料
- ◇光学材料

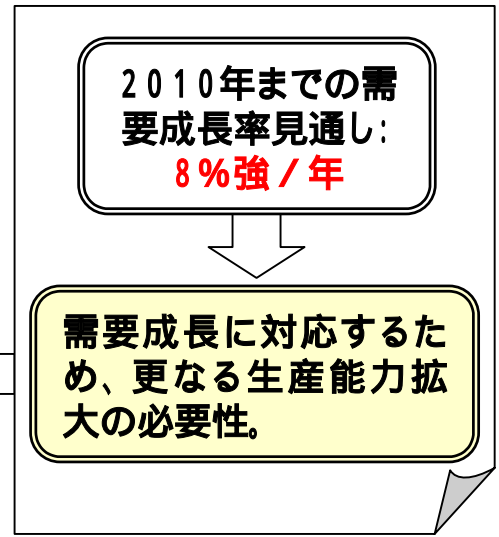
- ◇高機能新規材料
- ◇エネルギー
- ◇有機/無機複合材料

仏ソフィカール社の炭素繊維新ライン順調に稼働

欧州における旺盛な炭素繊維需要に対応するため、10月に稼働を予定していた仏ソフィカール社の炭素繊維新ラインが順調に稼働開始。

		2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
米ボーイング	777							
	7E7	開発				就航		
仏エアバス	A330 / A340							
	A380	開発		就航				
	A350		開発			就航		

	~ 2004年9月	2004年10月	2006年初め
日本(愛媛工場)	4,700	4,700	4,700
フランス(SOFICAR)	800	2,600	2,600
アメリカ(CFA)	1,800	1,800	3,600
生産能力合計(東レ)	7,300	9,100	10,900
生産能力合計(市場全体)	23,000	24,800	27,300
東レの生産能力シェア	約32%	約37%	約40%



国内関係会社の整理・統合・再編の方針の一環として、東レエンタープライズ(株)は、直営ホテル事業の売却を決定。

東レエンタープライズ(株)

不動産事業
(不動産賃貸事業および企画開発)

受託事業
(企業自治体福利厚生施設運営受託事業)

直営ホテル事業

チャンピアホテル赤坂

チャンピアホテル防府

大津チャンピアホテル

チャンピアホテル名古屋(03/3)

チャンピアホテル大阪(03/11)

チャンピアホテル青山(04/10)

売却
(04/12)

移籍希望者は原則として
全員受け入れ

イシン・ホテルズ・グループ

ヒルトン成田、
インターナショナルガーデン
ホテル成田、
京都ロイヤルホテル
鹿児島東急ホテル、
ホテルガーデン六本木

全国でホテル事業
を展開

賃貸期間満了を機に収束(収束時期)

本資料中の2005年3月期業績見通し、及び中期経営課題における見通し、事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。